



### 突然の介護に戸惑う家族

最近 元気で生活していた老人が急遽入院になり、要介護が重くなり家族は退院後の介護に戸惑うケースが多くなってきている。

Tさん 89歳は、新型コロナウイルスに感染し、長期入院のため 日常生活動作が低下し、要介護1から要介護5となった。更に 後遺症により肺機能が低下し、在宅酸素を使用することになり、家族は余命宣告までされた。

病院では 新型コロナウイルスにより、なかなか面会ができないため、在宅療養生活で看取りまで考え、看護小規模多機能型居宅介護『ケアホーム希望』の利用が開始となった。

Nさん 81歳は、特別養護老人ホーム入所中に発熱や高血圧を繰り返し、病院に緊急入院したが、病状が安定せず、病院からは何かあったら連絡するとのことだった。新型コロナウイルス感染防止のため なかなか面会ができず、Nさんの状態がわからないまま何かあったら後悔すると、看護小規模多機能型居宅介護『ケアホーム希望』の利用開始となった。

2ケースとも、往診医を導入し、『ケアホーム希望』にて感染対策に十分配慮し、家族と一緒にいられる場をつくり、利用者と家族の精神的安定をはかった。

利用開始直後は不安定であった体調も点滴や在宅酸素を導入することで、みるみると元気になり家族は一安心した。しかし、看護小規模多機能型居宅介護サービスは、あくまでも在宅介護であり「泊まり」のサービスを継続して利用し続けることはできず、「通い」や「訪問看護・介護」サービスを利用しながら在宅での生活が基本となる。家族にとっては、これが初めての介護経験となるから不安と心配事でいっぱいになる。

食事介助に排泄介助、移動の方法等、基本的な介護技術をマスターしなければ在宅療養生活を維持することはできない。更に家族は就労しながらの介護になるケースが多い。

そのため「家に一人にさせておく時間が不安だ」と、毎日「通い」のサービスを希望する家族もいる。しかし、1日に「通い」のサービスを利用できるのは17名まで、「泊まり」のサービスは6名までと定員数が決められている。

臨機応変に「訪問看護・介護」を組み合わせ、ケアマネが試行錯誤して調整、提案している。介護方法については、看護師・介護職員が家族に安心して親の介護ができるようになるまで丁寧に指導を行う。

サービスを利用し、家族の介護負担の軽減をはかることは大切で、重要な問題ではあるが、まずは利用者ご本人が「どうしたいのか？」を確認し本人を中心とした生活を考えていきたいため、家族の協力を仰ぎたい。

困ったなあ…

「通い」は、17名までだし

「泊まり」は、6名までだから…



# ケアホーム希望の

# 知っておきたい

## 『食事介助 食べやすい姿勢とは…～』



ケアホーム希望では、食事を周りの人との交わりや季節感、彩りを楽しみながら、「美味しく食べる」と同時に「安全に食べる」ことにも気をつけ、しっかり栄養や水分を摂る場であると考えています。

姿勢の  
チェック



食事中、足は無関係のように思えますが、実はとても大事な役割があります！  
足をきちんとをつけることで、身体に力が加わり、しっかり噛めるようになり、また咳込んだり、物を吐き出すことができます。  
逆に足がブラブラした状態だと、咀嚼力が弱まり、噛む回数も減ります。またスムーズに消化できず、胃腸の負担にもつながります。  
咀嚼力が低下すると、顔の筋肉が使われなくなり、表情が固くなってしまいます。

point



足の裏をしっかりと  
床につける

### 姿勢のチェック

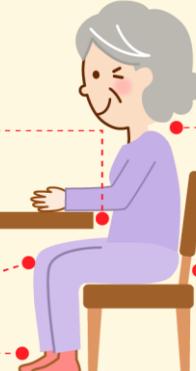
テーブルとお腹の間に  
握りこぶ一つ分の余裕

テーブルが高すぎ  
ないように調節

股関節とひざは直角に

前かがみになって  
顎を引く

背もたれのある  
椅子に  
深く腰掛ける



最期まで美味しく食べるには、口の中が健康であることも大切です。老化や認知機能の低下で噛む力や飲み込む力は衰えます。健康を維持するには、口腔ケアも欠かせません。食事後はきちんと口腔ケアをしましょう。

# いつもステキな笑顔を ありがとう！

